

やすらぎ加賀通信

第100号 2014/12/12

記念の100号。創刊号をみると当教室は県内5番目の教育支援センターとして、2002年4月11日に開所式が行われました。県教育委員会学校指導課長他多数の来賓があり、当日はテレビ局の取材があったと記されております。数えて13年目。当初通室していた生徒はそろそろ家庭を持っている年頃でしょうか。生徒それぞれが、人生を楽しくたくましく生きていてくれることを願わずにはおれません。

土田先生（心理カウンセラー）の相談予定日

1月16日（金）、30日（金）

2月20日（金）、27日（金）

時間：9:30～11:30

場所：やすらぎ加賀教室

※相談ご希望の方は予約をお願いします。



	来室相談	訪問相談	電話相談	合計	通室生徒
9月	16	10	16	42	1
10月	18	11	23	52	2
11月	16	6	21	43	2

※土田先生による学校訪問相談は市内2高校計4回実施、本年度は終了しました。

アッキーの つぶやき

今年の夏休みに静岡県の富士宮駅から名古屋行きの新幹線に乗った時のことです。午後1番の車内はガラガラでした。所定の席について通路を挟んだ隣の席をみると、小学生らしき女の子が私に微笑んで「浜松はまだ？」と問いかけてきました。「まだ、静岡の次ですよ」と答えたところから二人の会話が始まりました。横浜から浜松のおばあちゃんの家に行くこと。自分は小学2年生、隣でゲームに熱中している兄は5年生であること等々。彼女は列車の中で折ったらしき沢山の折り紙の中から私に「あげる」といってフクロウの折り紙を渡してくれました。短い出会いでしたが今でもあの時の心温まる光景が私の中にあります。昔から「かわいい子には旅をさせろ」という諺がありますが、夏休みが終わるころ、この子たちはどんな成長をしているかとても楽しみな出来事でした。

《 教室スーパーバイザー 》 土田 晶子 先生

第3回 事例検討会から 12月9日（火）15:00～ 加賀市青少年育成センター 参加17名

高校生の事例。よく接する先生が自殺念慮を口にするこの子どもにどう対応してよいか、どう受け止めていけばよいか悩んでいるとのことでした。

PCAGIP 法による検討会は4回目になり、会の采配が少し難しいですが、会自体はだんだん良くなってきているように思います。今回も学校始め様々な立場の方が集い、参加型の会で事例提供者に

- ・ 1人の先生が抱え込まず、複数の先生が関われるようになればよいこと。
- ・ つらい気持ちにあくまで付き合う言葉かけをするように努めること。

等のヒントや、支援の方向性を与えられました。

事例提供者からも

- ・ 日頃思ってきたことが参加者のヒントにより、よりわかりやすい言葉になった。
- ・ 支援の方針に展望ができたとの感想をいただきました。

最後に県教育センター教育相談課長の圓地郁尚先生より講評をいただきました。

加賀メンタルフレン

11月・12月の活動



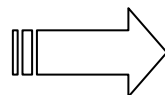
今年度も、金沢大学原田先生のご協力により4名の学生（女性3・男性1）が、加賀市内の高校、中学校、やすらぎ、のぞみに11月より、週1回を目安として、子供達の相談や話し相手に訪れています。世代が近いので、また地元出身の学生もいて頼もしい活動を行っております。本年度から回数を2回増やし、12回の活動です。

皆、遠方からやってきて頑張ってくれています。その中でも、二人は採用試験にも合格しております。合格通知が届いて、「小学生からの夢がかなった！」とのことでした。

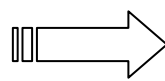
若い人たち、山あり谷あれど夢は必ず叶うと信じましょう。一步踏み出せる日が必ず来ます。

体験実習教室（ほだ木づくり）

11月13日（木）ちょっと空模様が怪しかったですが、シイタケとナメコのほだ木作りをしました。通室生はインパクトやドリルに初挑戦で初めはおそろおそろでしたが、すぐになれて8本のほだ木に穴を空けて、キノコの種駒を入れてくれました。とても良い出来でした。愛情をそそいで管理すると来年からキノコがとれますよ。楽しみです。



なお、ランチはキノコたっぷりの豚汁をみんなで作って食べました。労働のあとでしたのでとても美味しかったですね。今年は室長のカモの薫製はありませんでした。



通室生の様子

やすかがは自然に囲まれているので、散歩やプランターでの野菜づくりでエネルギーを充電するのに最高です。今年度は自学自習の様子がよく見られます。A君は資格試験にも合格しました。時々将棋やおやつにもチャレンジです。

